

犯罪被害救援基金 専務理事 黒澤 正和

ただ今、ご紹介いただきました公益財団法人犯罪被害救援基金 専務理事の黒澤でございます。本日は、『犯罪被害者週間全国大会2019』の開催を心からお祝い申し上げます。また、大会にお招きをいただきご挨拶をさせていただく機会を与えていただきまして大変光栄で嬉しく存じます。

犯罪被害者団体ネットワーク、愛称ハートバンドは、全国の犯罪被害者団体・自助グループが集う日本で唯一のネットワークとして、犯罪被害者の権利の確立と被害者支援の充実をめざして、「ゆるやかな連携」という共通認識のもと、全国大会を結節点にして、切実な諸課題を交流・討議・発信してこられました。

今年の全国大会は、被害者週間に行われるようになってから開催されるのは15回目です。継続すること自体大変なことですが、この間、皆様方は被害者の立場から情報発信をされ、制度の改善など貴重な成果を挙げてこられました。ここに、深い敬意を表するものであります。

ところで、皆様方の情報発信には、説得力があり、力強く、迫力があります。わたくしは、被害者の視点に立った施策の推進ということを折に触れ強調いたしますが、真に、被害者の立場に立っているのか不安になります。皆様に指摘されないと気が付かないことがあり不安になるからです。皆様方は、被害者の目線に立った発信をされるからこそ、説得力があり、力があるのです。皆様方でないといけないのです。今後とも、発信を繰り返し行っていただきたいのです。生活支援など、更なる改善や体制整備につながる地方自治体の条例制定が全国的に推進されていますが、それは、皆様方の発信の結果であるものと思います。条例制定は、基本法の理念を名実ともに具現化するための有力な手段・方法の一つであるものと考えます。

基本法制定から15年の節目の年の全国大会2019が多岐の成果をあげられ、盛会裏に行われることをお祈りいたしまして挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。